MUSASHINO HISTORICAL MUSEUM



武蔵野ふるさと歴史館だより

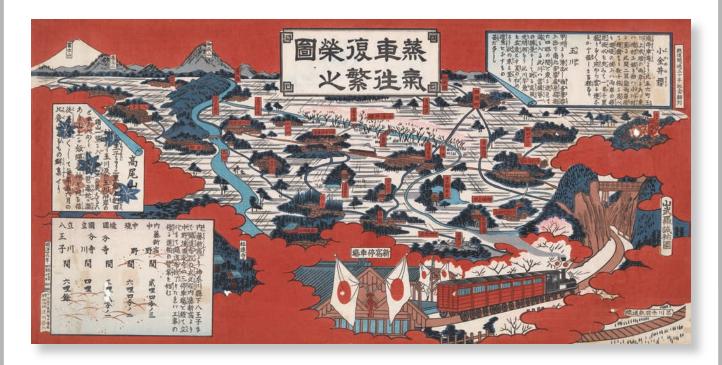
収蔵資料紹介 7

蒸気車往復繁栄之図

明治22年(1889)4月、甲武鉄道(現・JR中央線)が新宿一立川間に開業し、東京と多摩地域との結びつきはいっそう深くなります。開業当時は、新宿・中野・境(現・武蔵境)・国分寺・立川の5つの停車場だけで、新宿一立川間を1時間で結んでいました。境停車場が開設された背景には、境の人々による誘致活動がありました。もともと東京と多摩地域を結ぶ鉄道は、多摩地域で産出される石灰や生糸などの物資輸送を主な目的に計画されましたが、甲武鉄道会社は武蔵野の名所を宣伝し、観光客の鉄道利用を促しました。小金井桜の花見の季節には臨時列車が運行され、東京からの花見客は、境停車場で降りて、玉川上水沿いを散策して、国分寺停車場から再び鉄道に乗車して帰るというのが代表的なコースだったようです。

本図は明治22年(1889)に甲武鉄道の開業を記念して作られた錦絵を昭和14年(1939)に翻刻したものです。甲武鉄道の 線路を中心に、堀の内妙法寺、井の頭弁天、小金井桜、深大寺、大国魂神社など武蔵野の名所が描かれています。

(武蔵野ふるさと歴史館 学芸員 米崎 清実)



目次

[収蔵資料紹介]蒸気車往復繁栄之図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
妻木重直家臣「坂下善兵衛」と千町野開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
村議定から見る吉祥寺村 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
父、忠左衛門義克の手紙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1(\mathcal{C}
広告チラシにみるくらし 一武蔵野市井口家の事例から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1:	2
[収蔵資料紹介]境地域最古の住宅地図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6

妻木重直家臣「坂下善兵衛」と千町野開発

京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程/武蔵野ふるさと歴史館 特別研修員 夏目 宗幸京都大学大学院文学研究科修士課程 安岡 達仁

現在の武蔵野市・三鷹市・杉並区の一部を含む地域は、千町野、牟礼野、札野(*)(以下、千町野)と呼ばれた 広大な野であったが、17世紀中頃以降の新田開発により、人々の定住空間となっていった。寛文10年(1670)の開発は、関村の井口八郎右衛門を中心に進められた。この開発の特徴として、多数の武家達が屋敷地の割渡 しを受けたことがあげられる。武家達の屋敷地は、「大宮前」(現・杉並区大宮前)と「れんちゃく新田前」(現・三鷹市上連雀)に集中している。屋敷地の割渡しを受けた武家の名前は、武蔵野市内の井口家文書に含まれる寛文10年(1670)6月に認められた「御札野新田村々方々へ相渡し申覚帳」(2)(以下、覚帳)から知ることができる。しかし彼らの多くは、覚帳以外の千町野地域の文書に足跡を残しておらず、屋敷地の割渡しの経緯や、武家達の関係性は未だ不明な点が多い。

「大宮前」に屋敷を割渡された妻木重直(妻木彦右衛門)は、その足跡を知ることのできる数少ない武家の1人である。妻木重直は、万治3年(1660)から寛文2年(1662)まで長崎奉行を務めた後、勘定奉行に転じ、寛文9年(1669)には、上野国笠懸野(現・群馬県)、上総国椿海(現・千葉県)そして武蔵野において新墾地の巡見を行っている(3)。 覚帳と同じく井口家文書に含まれている「妻木彦右衛門書状」(4)は、この武蔵野巡見の途中10月14日、拝島において妻木重直が認めた書状である。この書状は返信であり、書状の劣化により宛先人は不明であるが、その内容は井口八郎右衛門の開発地の検地について、特別な手心を加えられることを妻木重直が望んだものと考えられている(6)。 米崎清実氏の論考によると、その宛先人は、同じく「大宮前」に屋敷地の割渡しを受けた遠山景光(遠山忠三郎)である可能性を指摘している(6)。 いずれにせよ、妻木は勘定奉行として、千町野開発に係わる重要な立場にあり、妻木本人やその関係者に関する研究の進展は、千町野開発の経緯を知るための重要な手がかりとなる。

本稿においては、この妻木重直に係わりのある新たな人物として、「れんちゃく前」に屋敷地を割渡された武家の1人である坂下善兵衛という人物に焦点をあてる。『武蔵野市史』(7)は、この坂下善兵衛について触れてお

らず、その人物像はこれまで不明であった。こうした状況下、昨年出版された『甦る「豊後切支丹史料」:バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より』⁽⁸⁾に収録された寛文元年(1661)の書状綴、「続5寛文元年 丑之年長崎江此方方遣状写」中の4通の書状に、同名の坂下善兵衛の人物名を見出すことができた。

以下にそれぞれの書状の翻刻を転載し、現代語訳を加えつつ、若干の説明を行う。なお、4通の書状は、[書状1]、[書状2]、[書状3]、[書状4]と区分して表記する。

[書状1]は、4月25日付、差出人は図書とぬい⁽⁹⁾、宛先は坂下善兵衛様に続いて、人々御中と記載されている。[書 状1]の現代語訳を示せば、次のとおりである。

「あらためてお手紙を差し上げます。彦右衛門様から去

[書状1]

もの、 候、 能 請取被為成之由 御書被下、 坂下善兵衛様 月廿 筆令啓上 登守 猶可得御意候条、 飛札如此御座候、 薩摩表ゟ其 御口上被仰渡之趣、 Ŧi. 方へも申遣 致拝見候、 候、 御懇之御書成被下候 地 御席之刻可 直 従 右之御礼 随 具以 召召 右 承奉存候、 連 小佐井村吉兵衛と申 衛 恐々謹言 進上 ·然様被仰上可 可申上ため、 様 审 去十 則 ぬ 义 処 (上使之 書 御雲 於江 Ħ 慥

彦右衛門様御内 河下勘兵衛様 坂下善兵衛様

七月五日

と申者、 甚兵衛方ゟ可被申上候、 極月二十四人此方へ御返し被成候内、 $\langle \rangle$ 病死仕 ||座候旨、 右衛門 座 去年きりしたん類門ころひ申、 可被仰付候、 候 去年之年付四十二、右之仁右衛門今月朔日 候、 様 付 頃 〈御次而 宗門ハ浄土宗龍原寺と申寺之旦 弥相: 茶や甚兵衛方ゟ申越、 御地 尚 改土 之刻被仰上 期後音之節候、 葬 自然此筋御用之儀も御座候 取 置せ申 可被下候、 命を御助被 珍重奉存候、 弥御機嫌能被 恐惶謹言 森村仁右衛門 候、 委細茶や 右之段、

一那にて

成

る17日付のお手紙をくださり、拝見いたしました。さて、 小佐井村の吉兵衛と申す者を薩摩表よりそちらへ直(じか) に召し連れて進上しましたところ、確かにお受け取りにな られたとのこと、ご丁寧なお手紙を下さいました。その上、 使いの者どもに口上で申し渡された内容を具(つぶさ)に 承知いたしました。そこで江戸の能登守(10)方へも申し遣 わします。右の御礼を申し上げるため、あなた様のもとま で飛札(急用の手紙)をこのように差し上げます。ついで の折によきように(彦右衛門様まで)言上してください。 またお手紙をいただくこともあるかと思いますので、詳し くは申し述べません。」

[書状2]は、7月5日付、差出人は [書状1]と同じ縫殿と図書、宛先は彦右衛門様御内の河下勘兵衛様と坂下 善兵衛様と連記されている。[書状2]の現代語訳を示せば、次のとおりである。

「お手紙を差し上げます。 そちらにいらっしゃる彦右衛門様はいよいよご機嫌よくいらっしゃるとの旨を先頃 茶屋甚兵衛方より申してきました。珍重に思います。さて、昨年キリシタンの信徒たちが改宗しその命をお助 けになり、12月に14人をこちらへお返しになった者のうち、森村の仁右衛門と申す者は、昨年で42歳となって おりましたが、この仁右衛門が今月の朔日に病死しました。宗門は浄土宗で龍原寺という寺の旦那でしたので、 しっかり調査をして土葬にしました。この旨を彦右衛門様へついでの折に言上してください。詳しくは茶屋甚 兵衛方より申し上げるでしょう。もしこの件で御用の儀がありましたら、申しつけください。また後日のお手紙 をお待ちしております。」

[書状3]は、7月21日付、差出人は [書状1]、[書状2]と同じ縫殿と図書、宛先は河下勘兵衛様と坂下善兵衛様 の連名である。[書状3]の現代語訳を示せば、次のとおりである。

「あらためてお手紙を差し上げます。さて、渡部 宗覚の知行所である葛木村に居住していた十三郎と 申す者は、去年そちらへ召し寄せられた者です。こ の十三郎が家を幕府領である乙津村の左近と申す 者に売ったところ、その買主である左近が去る18日 にその家を引き払って乙津村へ引っ越すとき、屋根 に敷くすすのなかに書き物が4枚ありました。そこ で宗覚知行所の庄屋惣左衛門方へ乙津村の左近方 からこれを渡し、惣左衛門は能登守領分の森町の庄 屋次郎兵衛方へこれらの書付を持参して知らせてき ました。こういうわけで、そちらまでそれらの書付 を(使者に)持たせて進上します。詳しくは中西十 郎右衛門に口頭で申し含めました。あなた方様まで (中西を) 遣わしますので、事情をお聞きになり、彦 右衛門様まで言上してください。ここでは詳しく申 し述べません。」

[書状3]

坂下善兵衛様

河下勘兵衛様

七月廿

不能詳侯、恐惶謹言 御聞被成、

付を致持参申聞せ候、 屋惣左衛門方へ、乙津村左近方ゟ相渡申「付、 委細八中西十郎右衛門"口上申含候、 能登守領分森町庄や次郎兵衛方へ、 彦右衛門様/可被仰上候事! 依之、 御私迄彼書付持せ進申 各様迄進 右之書

左衛門、

敷申する内で書物四

枚御座候、

則

宗覚知行

所之 惣

もの『売申候処、 彼家をほとき候て、 御座候、 候十三郎と申 彼十三郎 者、 彼買主左近と申もの、 是ハ去年 乙津村(取 家を御 渡部宗覚知 其表へ被召寄候も 公領乙津村左近と申 越申候処二、 行所葛木村 去ル十八日 屋 ね

[書状4]は、8月28日付、差出人は、[書状1]、[症状2]、[書 状3]と同じ縫殿と図書、宛先は坂下善兵衛様と河下勘兵衛 様の連名である。「書状4]の現代語訳を示せば、次のとお りである。

「お手紙を差し上げます。そちらの彦右衛門様はいよいよ ご機嫌よくいらっしゃるとのこと、珍重に思います。さて、 能登守方よりの書状と切鮑を進上いたすように江戸より連 絡がありましたので、そちらまで持参させます。この旨を 言上してください。また、村井立甫老が日向の有馬左衛門 佐様へ見廻りされるとのことで、先頃こちらにお立ち寄り になりました。去る23日にこちらをお立ちになりました。 この脇差を彦右衛門様へ進上するので、そちらまで都合次

候 表 **監詳候、** 有馬 候由、 一中 成 审 去 此 坂下善兵衛様 河下勘兵衛様 旨被仰 ル 世三 候、 候 左衛門佐様 恐惶謹言 間、 候由、 珍 則 重奉 次而 一日爱元御立候、 御私迄便宜次第 上可被下 自 為持進之候間 立甫老ゟ以書状被申由 江戸 御 見廻被 被申 候 且又、 -越候条、 此脇指 従能登守 申 御請取被成御差上ヶ 慥 电 村井立甫老、 御私迄為持進之 相 頃

彦

右衛 申

門

様へ

此

表 八御

寄

日

届

様

御

御座候、

不

令啓

上候、

表

方書状

第で確かに届けるようにと申し置かれました。ついでではありますが、持参させますのでお受け取りになり、(彦 右衛門様に)差し上げてください。このように立甫老より書状があったとのことでございます。ここでは詳しく 申し述べません。」

以上、寛文元年(1661)中に認められた、宛先に坂下善兵衛の名のある4通の書状の翻刻と現代語訳を示した。 これら書状の差出人は、いずれも臼杵藩重臣の稲葉図書と山田縫殿である。書状に頻出する彦右衛門は、当時 長崎奉行であった妻木重直のことである。

これら4通の書状は、昭和初期に来日したマリオ・マレガ (Mario Marega)神父の収集した豊後国のキリシ タン弾圧に関する文書群の一部である。マレガ氏はこれらの文書を整理・解読し、『豊後切支丹史料』(11)と『続 豊後切支丹史料』(コン)を刊行した。 長らく原本の行方がわからなくなっていたが、 2011年にバチカン図書館にて 再発見されたものである(13)。 こうした収集経緯からも明らかなとおり、[書状1]と [書状2]の内容は、何れも「豊 後崩れ」と呼ばれる寛文年間前後に豊後国にて行われた、キリシタン取締りに関する臼杵藩から長崎奉行所へ の書状である。

一方、[書状1]と [書状2]と同じ書状綴に含まれる [書状3]と [書状4]の内容は、キリシタン取締りとは直 接関係しない。 [書状3]に名のある渡部宗覚は元々大友宗麟の家臣であり、明において大砲の鋳造法・操術を学 んだ後、徳川家康に仕えた(14)。 慶長9年(1604)には家康から豊後国葛木村内に100石を拝領した人物である(15)。 寛文元年(1661)には相当高齢であったと推測され、書状の内容からは、渡部の知行所に関する手続きを、同じ く葛木村を領する臼杵藩が代行している。 また、 [書状4]の名のある村井立甫 (16)の経歴は詳らかでないものの、 書状の内容からは、村井は妻木重直に脇差を贈っていることがわかる。両者がいつどのように接点を持ったの かは不明だが、幕府の要職にある妻木との個人的親交の様子を示している。書状の認められた寛文年間前後は、 これまで、幕藩秩序が属人的関係から「家」を基軸とする関係への転換期であると指摘されている(17)。渡部や 村井といった人物は一代限りでその消息を絶っており、近世初期における戦国の色合いを残した最後の人物た ちと、長崎奉行所との関係性を窺い知ることができる。

こうした寛文元年(1661)の4通の書状の宛先人である坂下善兵衛は、[書状4]の 「彦右衛門様御内 河下勘兵 衛様、坂下善兵衛様」の書き方から、当時、長崎奉行であった妻木重直の家臣であることは明らかである。先 に述べたように、寛文10年(1670)の千町野における屋敷地の割渡しに際しては、勘定奉行に転じた妻木とと もに、同名の人物が割渡しを受けている。 つまり両者は同一人物であり、 坂下善兵衛という人物は、 妻木の長 崎奉行から勘定奉行への転任に伴い、長崎から江戸への転居に同行した妻木家の家臣であると考えられる。

以上、4通の書状の宛先人として記載されている坂下善兵衛と妻木との関係性を明らかにした。妻木重直本人は、千町野開発の裁可に関わる重要な人物であることはすでに述べたとおりである。妻木家の家臣に対する屋敷地の割渡しの事実は、千町野開発における妻木重直の関与が、これまで知られていた以上に深かったことを示唆している(18)。さらに、千町野における坂下善兵衛の存在は、同地における武家達の配置に、一定の原則の存在を窺わせる。

図1は、覚帳の「れんちゃく新田前」の一部分を抽出したものである。 馬場勘右衛門以下6名は、「れんちゃく新田前」の3筆分の屋敷地を共 有している。彼らは6名とも「大宮前」に屋敷地を割渡された野村為 利の家臣(手代)であり、主人と離れて配置された(19)。坂下善兵衛も 同じく「れんちゃく新田前」において、鈴木勘左衛門、石川六郎左衛 門という来歴不明の人物と3筆分の屋敷地を共有しており、「大宮前」 の妻木重直とは離れて配置されている。坂下善兵衛と屋敷地を共有す る鈴木勘左衛門、石川六郎左衛門に関する情報は見出し得ないが、野

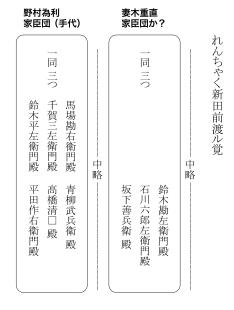


図1 れんちゃく新田前の屋敷割

村家臣の馬場勘右衛門以下6名の屋敷地の共有方法から見て、両名とも妻木家の家臣である可能性を類推できる。このように、千町野における屋敷地の割渡しは、その人物の属性に基づいた分配が行われており、野村家と妻木家の例からは、大宮前に直臣層を、れんちゃく新田前に陪臣層を配置する傾向にあったと考えられる。

[註]

- (1) いずれも武蔵野市、三鷹市、杉並区の一部を含む地域を指す。別称は全域を指す場合と、特定の狭い範囲を指す場合もある。
- (2) 武蔵野市(1991)『武蔵野市史 資料編六 井口家文書三』所収。
- (3) 『寛政重修諸家譜』301巻。
- (4) 前掲註(2)。
- (5) 武蔵野市史編纂委員会(1965)『武蔵野市史』。
- (6) 米崎清実(2020)「井口家文書の妻木彦右衛門書状」『武蔵野ふるさと歴史館だより』第5号。
- (7) 前掲註(5)。
- (8) 松井洋子・佐藤孝之・松澤克行(2020)『甦る「豊後切支丹史料」: バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より』勉誠出版。
- (9) 豊後臼杵藩重臣の稲葉図書と山田縫殿。
- (10) 豊後臼杵藩4代藩主の稲葉信通。
- (11) Marega Mario(1942) 『豊後切支丹史料』 サレジオ會。
- (12) Marega Mario(1946) 『續豐後切支丹史料』 サレジオ會。
- (13) 前掲註(8)。
- (14) 上田正昭ほか監修(2001)「渡辺宗覚」『講談社日本人名大辞典』講談社。
- (15) 平凡社地方資料センター編(1995)「葛木村」『大分県の地名 日本歴史地名大系45』平凡社。
- (16) 太田亮(1942)『姓氏家系大辞典6』国民社によれば、村井貞勝の孫に立甫と名乗った人物が存在したとされるが、詳細は不明。
- (17) 朝尾直弘(1975)「将軍政治の権力構造」 『岩波講座日本歴史10近世2』 岩波書店、同(1994) 『将軍権力の創出』 岩波書店に再録。 福田千鶴(1992) 「幕藩制的秩序についての一考察一主君の「器用」をめぐって」 『日本歴史』 531。
 - 三宅正浩(2014)「江戸幕府の政治構造」 『岩波講座日本歴史11近世2』 岩波書店。
 - 兼平賢治(2020)『近世武家社会の形成と展開』吉川弘文館。
 - 安岡達仁(2021)「家綱政権における隠居大名の政治的位置—山内忠義を事例に」(令和2年度京都大学大学院文学研究科修士論文)は、 寛文年間の隠居大名に関する分析を行い、この点に言及している。
- (18) このほか、夏目宗幸(2019)「遠山景光と千町野開発」『武蔵野ふるさと歴史館だより』第4号では、千町野開発の関係者に長崎奉行経験者の多い事を付記したが、陪臣層にも長崎奉行所に勤務した人物がいたことになり、この点も興味深い。
- (19) 夏目宗幸・安岡達仁(2020)「職能武家集団の移住にみる千町野開発の意義と実態」『E-journal GEO』15(2)日本地理学会。

村議定から見る吉祥寺村

武蔵野ふるさと歴史館 学芸員 米崎 清実

はじめに

村議定とは村掟や村法とも言われ、村の法を成文化したものである。もちろん、村社会には成文化されない 慣習法の世界があった。また、江戸時代の村議定には、表題に議定と記されているものの、領主からの通達を 受けて作成されたものもある。村議定ではさまざまな内容が取り決められた。しかし、村が独自に取り決めた内 容であっても領主の法に抵触するものではなかった。いくつかの村が連合して取り決めた組合村議定も村議定 の一つである。

市内に伝来する文書の中にも村議定が見られるが、小稿では、江戸後期から明治初期の吉祥寺村の村議定を通じて当時の村の状況について紹介したい。

河田家文書における村議定

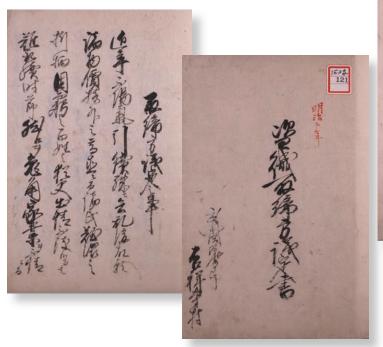
武蔵野市が保管している旧吉祥寺村河田家文書には、江戸後期から明治前期にかけての20点の村議定が伝来する (表1)⁽¹⁾。総数232点の河田家文書の中で村議定の割合は高い。

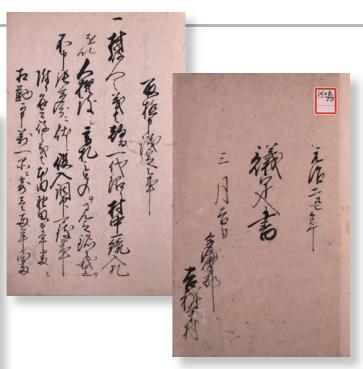
表1 河田家文書の村議定

1	文化9年(1812)9月	村々取締儀定一札(浪人、諸勧化取締りに付)	多摩郡下高井戸宿外36ケ村
2	弘化5年(1848)3月	役頭取究議定書	
3	嘉永5年(1852)12月	議定一札(防火、消火に付)	多摩郡吉祥寺村
4	安政年3 (1856) 8月	議定一札連印帳(質素倹約に付)	武州多摩郡吉祥寺村
5	万延2年(1861)正月26日	議定書(田畑諸作物盗難防止等に付)	武州多摩郡吉祥寺村
6	文久2年(1862)2月	議定書(盗賊等取締りに付)	武州多摩郡吉祥寺村
7	文久3年(1863)2月	御林開発願議定書	多摩郡吉祥寺村
8	元治2年(1865)正月	御伝馬勤方議定書	多摩郡吉祥寺村
9	元治2年(1865)3月	議定書(村役人選定に付)	多摩郡吉祥寺村
10	慶応3年(1867)9月	御触二付下掃除議定書	武州多摩郡布田宿寄場42ケ村組合吉祥寺村
11	明治2年(1869)8月	内藤新宿御伝馬雇人足 賃銭渡方議定連印帳 賃銭取極議定之帳	多摩郡吉祥寺村
12	明治2年(1869)	盗賊取締方議定書	武州多摩郡吉祥寺村
13	明治3年(1870)3月	五人組議定書	吉祥寺村中野田
14	明治3年(1870)3月	五人組議定書	吉祥寺村大野田
15	明治3年(1870)11月	取究議定書(村役人選定につき)	多摩郡吉祥寺村
16	明治5年(1872)2月	取究議定一札之事(井之頭官林払下げ問題に付)	
17	明治5年(1872)7月	取究議定一札之事(戸長人選につき)	
18	明治6年(1873)12月	議定書(村用掛り減員につき)	多摩郡吉祥寺村
19	(明治8年(1875))	学校御下金二付議定之事	
20	明治10年(1877)3月	諸集会甲出勤議定書	多摩郡吉祥寺村

武蔵野市保管河田家文書より作成

河田家文書の中にある村議定のうち、最も古いものは文化9年(1812)9月の浪人ものや諸勧化を取り締まるために下高井戸宿他36ケ村が結んだ組合村議定である。江戸後期、浪人者や幕府から許可を受けていない勧化が村々を徘徊し、それらの者たちによる「ねだりケ間敷」行為は村にとって問題となっていた。浪人者などによって引き起こされる事件のみならず、それらの者に与える金銭や事件が生じた際に訴え出る費用は村の負担となっていたからである。このような地域共通の課題に対処するために、村々では組合を結成し、共通した対応をとる





ことや訴訟費用などを分担する取り決めを行った。浪人者や諸勧化を取り締まる組合村議定は、関東各地に伝来しているが、本史料もその一つで、高井戸宿助郷組合を基盤に結ばれたものであることがわかる。

弘化5年(1848)以降は村議定の数が増える。弘化5年から明治6年(1872)までの25年間に16点が作成されている。幕末期から明治初期という社会状況が大きく変化する時期に吉祥寺村では多くの村議定が結ばれたのである。これらの村議定は、その内容から2つのグループに分けることができる。第一は治安に関するもので、第二は村役人制度に関するものである。

治安に関する村議定

村の治安に関する村議定は、万延2年(1861)正月26日、文久2年(1862)2月、明治2年(1869)に作成されている。 万延2年(1861)の村議定は179名の百姓が連名しているもので、次のように記されている。すなわち、近年の 不作により雑穀や肥料が底をつき高値になり、田畑の作物や山林を荒らす者、火付盗賊などが横行し、村人が 安心して暮らせなくなってきた。近隣地域でも同様の取り決めを行ったため、村内の主な百姓などからの申し 出を受けて、皆で相談して取り決める。そして、町場ごとに申し合わせて夜番することや、見回りをすること、 犯人を協力して捕縛すること、その際の費用分担などを決めている。

翌年の文久2年(1862)の村議定も田畑作物などの盗難に対するもので、177名の百姓が連名している。以前に取り決めたものの、不穏な状況が増長したため、改めて取り決めたことが記されている。田畑の作物を盗み取ったものや、事件を起こした無宿人などを捕縛して村役人に連絡すること、その際の費用分担などを決めている。

明治2年(1869)の村議定は、名主、年寄を含めて179名の百姓が連印している。近年の天候不順と、「兵乱後故歟、諸物価格外之高直」と戊辰戦争後の物価高騰という状況をふまえた取り決めである。田畑作物、衣類などの盗難への対処を主な内容とするが、若者の夜遊び取り締まりも記されている。また、盗人を捕縛したものへ金銭を提供したり、入れ物や道具などを持参して盗みに入った者を掘った穴に30日間留め置くことや、通りがかりに盗みに入った者の顔には墨を塗り、高札前に3日間晒すことなどが記されている。治安維持に貢献した者への報償や犯罪の軽重により独自の処罰を執り行うことが記されている。

以上の村議定から、幕末維新期、吉祥寺村では不作や諸物価高騰を原因として不穏な状況が生じていたこと

がうかがえる。吉祥寺村の家数は180軒ほどであるため、いずれの村議定も村の百姓の総意により取り決めたものであることがわかる。そして、吉祥寺村では独自に治安の維持を図るとともに、捕縛した犯人を処罰することを決めていた。

村役人制度に関する村議定

村役人制度に関する村議定は、弘化5年(1848)3月、元治2年(1865)3月、明治3年(1870)11月、明治5年(1872)7月、明治6年(1873)12月のものがある。

弘化5年(1848)3月の村議定は、組合惣代菊次郎他21名と百姓代作右衛門他6名が連印しているもので、亀十郎の年寄役に就任にあたり、5年間の試行期間を設けるというものである。

元治2年(1865)3月の村議定は名主3名、年寄3名、百姓代9名、百姓163名の連印によるもので、村役人の人数、選出方法、任期や勤め方などについて、次のように取り決めている。①村役人は一代限りとし、入札により選出すること②名主役は本田・野田で、年番(毎年交代)で務めること③年寄役は本田2人・野田2人で4組に分けて、毎年上・下1人ずつの当番で務めること④百姓代は1組に2人ずつ、全員で8人とし、本田・野田1人ずつ年番で務めること。

明治3年(1870)11月の村議定は、2名の名主と179名の百姓の連印によるもので、名主役就任に関する内容である。名主役を務めていた者が亡くなったり、退役したため、従来通り入札で後任を決めた。しかし、最も多くの札を獲得した者が名主役への就任に難色を示したのである。そこで、今後の吉祥寺村の名主4人体制を維持するとともに、欠員が生じた場合には入札により新たな名主役を選出することを取り決めている。

明治5年(1872)7月の村議定は、神奈川県からの通達に基づく村役人制度改変に関するものである。通達に基づき、名主を戸長に改称すること、従来の4名の名主役を減員せざるを得ない場合は、減員となった者は無役名で勤めることなどを、元名主・年寄・百姓代の間で取り交わしている。

明治6年(1873)12月の村議定は、2名の百姓代と4名の副戸長が連印しているもので、前年に引き続く大区小区制の施行に伴う、村用掛への改称と減員の通達に対する取り決めである。「当村丈は飽迄も是迄之通り四人願度」と、吉祥寺村では4人体制の維持を願ったものの、それが認められず、当面は2人ずつ隔年で姓名を書き上げるということで妥協している。そして、1人でも欠員が生じた際には、後任を取り決めた後に退役することとしている。

以上の村議定からは幕末期から明治初期にかけての吉祥寺村の運営主体となっていた村役人制度をうかがうことができる。特に、年寄役の就任にあたり試行期間を設けることや、村役人が入札により選出されることなど、鈴木研氏は、弘化5年(1848)3月、元治2年(1865)3月、明治3年(1870)11月の村議定から、「村内で一般農民の発言力が強まった」ことを指摘している⁽²⁾。一方、江戸幕府から明治政府へと政治体制が変わった中でも、吉祥寺村では村役人4人体制を維持しようとする意図が読み取れる。この4人は、元治2年(1865)3月の議定書に見るように、吉祥寺村内の本田・野田から2人ずつ選出するということに対応するものと見られる。つまり、吉祥寺村では、本田と野田という村内の字(地域)間で村の運営面で同じように村役人を選出するよう努めていることもわかる。

幕末維新期の村議定から見る吉祥寺村

吉祥寺村の幕末維新期の村議定をいくつか取り上げて、簡単ながら紹介してきた。そして、治安に関する村議定からは、不穏な社会状況と、それに村がどのように対処したのかを見ることができた。村役人に関する村議定からは、村運営についてうかがうことができた。

それぞれの議定書が作成された直接の契機は異なる。しかし、吉祥寺村内の百姓の間で共通認識を持ち、そ

れを確認、実行するために、成文化した村議定が必要だったという点では共通している。そこからは村議定を 作成した背景として、当時の吉祥寺村をめぐるさまざまな要因を考えることができる。つまり、吉祥寺村は武蔵 野市域の旧4カ村の中で最も村の面積が大きく、家数が多い。百姓の多くが農間余業に携わり、さまざまな生業 に従事していた。そして、村の運営に対して発言し、参画しようとする百姓たちの意識があったこともうかがえる。 残念ながら、そのような要因については、推測の域を出るものではない。しかし、江戸後期から明治期にかけて 多くの村議定が作成され、今日まで伝来していることは、吉祥寺村の特徴を考えるうえで重要なことといえよう。

[註]

- (1) 河田家文書の村議定は『武蔵野市史 続資料編三』(1986年3月、武蔵野市) に所収されている。
- (2) 『武蔵野市史 続資料編三』(1986年3月、武蔵野市) 解題。

『武蔵野市の文化財 改訂版』 『武蔵野市 文化財散策マップ』(第11版)を発行しました



武蔵野市では昭和45年(1970)4月に文化財保護条例が制定されました。そして武蔵野市では、昭和46年(1971)4月に「旧関前村名主役宅」ほか6件の文化財が武蔵野市指定文化財になり、以降、令和2年度までに35件の文化財が武蔵野市指定文化財の指定を受けています。また、武蔵野市内には、国指定文化財、国登録有形文化財、東京都指定文化財があります。武蔵野市内の文化財は、主に先人たちの生活の証であり、遺産です。その種別は、有形文化財、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物からなり、バラエティに富んでいます。

本書は、武蔵野市内の文化財うちから、井の頭自然文化園に生息する国天然記念物を除いた解説書です。本書を通じて、多くの皆様に武蔵野市内の文化財を知っていただき、武蔵野の先人たちの足跡を末永く後世に伝えるとともに、市民の皆様に郷土武蔵野に対する認識を高め、文化の向上に貢献するために活用していただけましたら幸いです。

『武蔵野市の文化財 改訂版』 A5 カラー 44ページ マップ付き

武蔵野市内の文化財についての解説や、文化財をめぐりながら散策できる、おすすめの コースなどが掲載されているマップです。

平成16年(2004)5月に初版発行、ついに第11版となりました。

平成30年(2018)7月に新指定された市指定有形文化財「蓮乗寺の仙路翁墓碣碑」「杵築 大社の武蔵野八景碑」や令和2年(2020)4月登録の国登録有形文化財旧東京市麻布区役 所庁舎(日本獣医生命科学大学一号棟)も掲載しています。

武蔵野ふるさと歴史館のホームページからもダウウンロード可能です。

『武蔵野市 文化財散策マップ』(第11版) A5(A2 カラー MAP折)



父、忠左衛門義克の手紙

武蔵野ふるさと歴史館 アシスタント職員 山崎 壽子

幕末から明治にかけての激動の時代に、関前村・同新田の名主を勤めた井口忠左衛門義克(以下、義克と略記する。)は、先代重隆が文政13年(1830)閏3月に26歳で亡くなった後⁽¹⁾、その妻ユキに下井草村組頭井口新之丞家から入夫した人物である⁽²⁾。名主としての堅実な仕事ぶりは、組合村の小惣代を勤めたことでも知れよう。御門訴事件直前に武蔵野新田村々の農業経営の窮状を「建言」に書き上げた気骨のある人物だが、その彼の人となり、特にどのような父親だったのかを知る手懸りがあるので紹介してみたい。



剣蔵宛井口忠左衛門義克の手紙 武蔵野市保管井口家文書

若き義克に、長女に続 いて長男剣蔵③が誕生し たのは、天保3年(1832) のことであった(4)。「井口 家年譜」には次のような記 述がある。「長男剣蔵幼ヨ リ仏法ヲ好ミ、家ヲ弟ニ譲 リ、所々遊歴シ、終二長崎 県肥前国大村ニオイテ出 家シ、智光日聚ト云、後長 崎大浦ノ郷鍋冠山誠孝院 ニ住職シ、壱岐国ニ宗ヲ 開キニケ寺ヲ新築シ、専ラ 弘経ニ志シ深ク宗祖ノ所 立ヲ躰認シテ、改宗受法 ノ徒千余人ニ及フ」。男子 7人、女子4人に恵まれた 義克だが(5)、特に長男剣蔵

にかけていた期待を窺わせる史料が、井口家文書の中の「独観雑記」である。弘化年間に隣村上保谷新田との出入り絡みで、江戸馬喰町の公事宿に長期滞在していた義克が綴ったこの日記には、暑中見舞いの品を持って剣蔵が訪ねて来るくだりがある(⑥)。初めてやってきた数え年14歳の長男を披露するため、義克は宿の番頭共に酒を振舞ったと記しているのである。連日、名所めぐりや芝居見物をさせるなど、この時とばかり張り切る父親ぶりが微笑ましい。剣蔵滞在最終夜の6月28日には、両国花火を見物するために、一緒に船に乗っている。「近年になき花火船にて、両国橋より大橋まで川一はいに船続き候」と、まるで浮世絵のような景色と、共に夜空を見上げる親子の姿が目に浮かぶようである。

さて、その剣蔵が住み慣れた関前の家を出てしまうのである。その際、両親と弟庄司宛に遺した2通の手紙については、ご子孫である井口良美氏が既に紹介している(*7)。 剣蔵は自身が病気がちで、末々農業は覚束ないと考えた末のことであると述べた上、文末には「父母にまた 逢ふまてを 花の春」との一句が添えられていた。井口家文書の翻刻されていない史料の中に、実は義克がこの時剣蔵に宛てて書いた返信がある。家出した息子を案ずる父親の心情を考えながら読んでいただきたい。なお、この手紙には年号がないが、閏2月であること、義克が自身

はり候二、 成とも取計無差支様可致間、 先は右まて、 頓首 胸欝文次前後混乱判読可被成侯、 知れぬ身なれは、 たりと壱人言ちこたひ、 転とハ御身か事也、 我か子を誉る父は愚なれとも、 栴檀は二ツ葉より香し、 感佩有餘候、予其存意を不察候は、 親之癖としていらさる調度之世話・道筋之案内等迄いた 何之望有之候共、 家属挙て楽しミ永かれと思ひ候愚さ誤り入候、 誠ニ 是迄我等悟さるハ甚以恥入候、 条書置之始末等つはらに明し候ハ、助次郎・金五郎 [女寒暑相厭自分之事大切二相心得可被成候、 一人江計り相咄し、 [事八歳之時ゟ俳諧之心懸有候とや、 ・閏二月二十五日認メ 剰縁談之事抔も或人を頼置、 望成就之上両三年過候ハ、 何れ之時か廻り逢次第相渡呉侯筈ニ而、 何れ後音床しく待入候、 貴様存意如何之願ニ候哉、 御身常体ニ顔色にも出さす、 朝に夕部に其行先を案し候、 日 流布之積り、 依而ハハ十二成る老母今にも 同廿一日両度 其節見送り等いたし候共、 聊不苦様取計 身之慎専一二而候、 外江の聞公病養として根岸親類方江 其途を見送る後ろ姿、今 迦陵頻我ハ卵之内より蒙求を 心配被成間敷候、 既二いぬる廿一日池上発足之砌 一認メ被置 落る涙に関止られ声も幽に読候処 云まてもなく候へ共、 兼而 此書中助次郎江 立戻り家相続可致ハ 執学稽古之願等ニ而も いふせき暮の中成共 四十を過し老之 山海筆ニ盡しかたく 実ニ諺之通り 大丈夫之振舞 然ハ今度之 候書面、 家内之事ハ何ニ 母江ハ力を附ケ 家内挙て 廿四日之夜見

を「四十を過し・・・・」と書いていることから、嘉永5年(1852)剣蔵21歳の春であることは間違いない。翻刻文は上の通りである。

剣蔵の突然の家出にうろたえ、悲しむ家族の様子が伝わってくる手紙である。幼少の頃から優秀だった剣蔵の悩みに気付けなかった後悔と、それでもいつか戻って家を相続してもらいたいと願う義克の心情がよく表れている。世間体を気にしているのは、自らの立場というより、剣蔵が家に戻りやすくするための配慮であろう。これまで名主としての事績で注目されてきた義克だが、父として息子へ宛てた万感こもった手紙からは、血の通った人物像が表出する。江戸時代の村名主という立場にあっても、家族に対しては厳格さより、むしろ子の願いに寄り添おうとする気遣いが印象に残るのである。なお義克がこの手紙を預けた助次郎は、「独観雑記」でも関前村から江戸に剣蔵と同行していることが記され、剣蔵と親密な関係の人物だったことがうかがえる。

さて、剣蔵に「心配無用」と書いた義克だが、混乱の幕末から明治維新を迎えても名主として、家長として励んでいたところへ、品川県から布達された社倉政策は村民の反発を招く。この御門訴事件で厳しい取調べを受けた義克が、出牢直後に病気のため亡くなったのが、明治3年(1870)2月18日、享年59であった。そして剣蔵が家を出る際、後を託した次男庄司は名主見習いになっていたが、事件に関わり逃亡先の駿州で同年10月に病没する。一方の剣蔵は得度した後、長崎大浦誠孝院の住職となったのが明治6年(1873)頃で、その後については井口良美氏の前掲書に詳しい。結局、関前の井口家は三男一太郎が継いだのである。

[註]

- (1) 『武蔵野市史』続資料編8井口家文書5(1994年3月、武蔵野市教育委員会)p. 392。
- (2) 村田朝雄「社倉門訴事件における『甚平と仙蔵』」(『多摩のあゆみ』第26号(1982年2月、多摩中央信用金庫) 所収)。
- (3) 史料上では剣蔵は鍵蔵とも表記されているが、ここでは剣蔵と表記する。
- (4) 井口良美「井口忠左衛門の長男剣蔵の足跡を訪ねて」(『多摩のあゆみ』第26号、後に森安彦編『井口忠左衛門と御門訴事件』(2008年11月、 井口良美)に転載。
- (5) 注(4)に同じ。
- (6) 注(1) p. 61 弘化2年(1845)6月24日~同29日に剣蔵の記述がある。

老母子供ハ慰め置可申間、

旁心配無用之事ニ而、

呉々も養生

井口鍵蔵殿 青草の時めき

春の別れ哉

関前

(7) 注(4)に同じ。

広告チラシにみるくらし - 武蔵野市井口家の事例から-

武蔵野ふるさと歴史館 アシスタント職員/日本民具学会会員 三代 綾

はじめに

人々の購買意欲を高める効果がある広告チラシは、時代により、地域により、取り上げる行事や商品は異なる。本稿では、武蔵野市域の家に残されていた広告チラシを材料に、表1を参照しながら項目別にかつてのくらしの様子を紹介する。

1. 概要

本稿で扱う資料は、令和2年度に武蔵野市八幡町の井口家から寄贈を受けたものである。広告チラシは59点あり、年代はおよそ昭和40年代、季節は梅雨時から中元に集中している。

現在、寄贈元の八幡町周辺は住宅地であるが、昭和40年代の地図からは、 五日市街道に沿って家が並び、広い畑が点在していたことがわかる。ちょうど昭和38年(1963)から昭和41年(1966)にかけて武蔵野市では町名地 番変更がなされ、住居表示が改められた頃であった。



吉祥寺名店会館チラシ

2. 対象と食

食に関する広告チラシの対象は、主に主婦だったといえよう。チラシを見て日々の食を考える人に向けた表現がなされている。例えば、表のNo. 1とNo. 3「東光ストア」、No. 11「シヅオカヤチェーン」、No. 59「mymart 西友」には「お母さま」「奥様」「ママ」「坊や」「ボク」といった表現が使用されている。主に結婚した女性と、その子どもである男の子への呼びかけであることがわかる。No. 59「mymart西友」には短髪にパーマをかけた女性のキャラクターが使われている。

チラシにみる日々の食について、以下の2点に注目してみよう。

1点目は、惣菜を宣伝している点である。現在では紙面紹介されることの多い惣菜コーナーであるが、かつてはほとんどみられなかったようである。No. 4「東光ストア」では、20店舗中12店舗で惣菜を販売しており、内容は不明である。

2点目は、生野菜を勧めている点である。例えば、No. 1「東光ストア」は巨大なスプーンとフォークを持った子どもが大きく描かれ、その前にはサラダボウルが置かれている。No. 3「東光ストア」には商品であるマヨネーズに対し「美容と健康に生野菜を!」というフレーズを付している。さらに、No. 12「mymart 西友」にはサラダセールというセール名で「ジョリジョリ、サクサク、サラダがお好きな家族は健康家族!」とし、家族で生野菜を食べることによる健康増進を呼び掛けている。商品はレタスやトマトなどの野菜を扱っている。キュウリなどは生で食べるものの、かつて、野菜は煮る・焼く・蒸す・漬けるという調理法が中心であったために、「健康」「美容」という言葉を用い、生野菜やそれを食べやすくするためのマヨネーズを宣伝している。食の変化をうかがうことができる。

3. 年中行事とどうぐ

この広告チラシで確認できた行事は「土用の丑の日」「七夕」「中元」である。 まず、「土用の丑の日」に注目すると、No.8「シヅオカヤチェーン」には土用の丑の食品として、うなぎ・鯉・どじょ う・牛肉・ローストチキンが紹介されている。写真で取り上げられている食品はうなぎ・牛肉・ローストチキンであるが、鯉やどじょうが行事食としてチラシに掲載されていたことは興味深い。

「七夕」はNo.2「東光ストア」で七夕セットとして折り紙、No.59「mymart 西友」では同じく七夕セットとして織姫・彦星の飾りが入っている。セットのため、これを1つ購入することで飾りは事足りるようになっている。かつて、武蔵野市域の農家の七夕行事は、手箕に野菜を置いて祀るなど、農業の豊作を願うものであった(1)。昭和30年代の多摩地域では、小さな野菜を笹竹に飾るということもあった。昭和40年代の広告チラシから、七夕という年中行事が簡略化され、親子で楽しむ新たな形へと変化しつつあることがうかがえる。

「中元」には、No. 9「シヅオカヤチェーン」には食としてマスが紹介され、No. 11「シヅオカヤチェーン」とNo. 59「mymart 西友」は中元の贈答品コーナーの開設が宣伝されている。No. 2「東光ストア」、No. 7「三平ストア」、No. 9「シヅオカヤチェーン」、No. 14「吉祥寺名店会館」、No. 26「イトーヨーカドー」、No. 41「六光デンキチェーン」、No. 55「イトーヨーカ堂」はセール名に使用するのみである。

くらしのどうぐに注目すると、例えば、No. 1 「東光ストア」は300円均一の商品には買物篭やキッチンポット、 座敷箒、洗濯機カバーなどが並べられており、当時のくらしの様子がうかがえる。



シヅオカヤチラシ

一方、電化製品も多彩である。冷凍機能の付いた冷蔵庫やカラーテレビも紹介されている。屋内を冷やすにはルームクーラーが大きく取り上げられているが、「お座敷扇」「卓上扇」「ベビー扇」などという品名で表記されるように、扇風機も多様であった。No. 53「六光デンキチェーン」には「全自動食器洗い機」や、衣類の「全自動乾燥機」が取り上げられ、新たな家電として登場してきたことがわかる。

No. 55「イトーヨーカ堂」では「毎日とりかえましょう……涼しい 肌着」とあることから、暑い季節ということだけでなく、毎日着替えるという衛生面にも触れられている。No. 7「三平ストア」には「座布団干し 太陽と風に当ててください」という宣伝文句で座布団ネットが紹介されている。和室を設けた家が多く、客人への対応など、現在よりも座布団は利用頻度が高く、身近なものだったと考えられる。また、No. 44「京王ストア」では蠅帳(食事を一時的に保管する棚)とともに食卓カバーも紹介されている。

さらに、子育てどうぐにも変化がみられる。例えば、No.3「東光ストア」にはエンゼルスター紙おむつが紹介され「梅雨時にまた旅行に

とっても便利」としている。さらに旅行にも持ち歩ける手軽さを宣伝している。No. 5とNo. 6「三平ストア」には「赤ちゃんの自家用車」としてベビーカーが紹介されているが、子どもが乗れるおもちゃの車を指している。

おわりに

今回は、昭和40年代の広告チラシからわかるくらしを紹介した。広告チラシは、くらしの移り変わりを見る上で貴重な資料と位置付けることができる。

[註]

(1) 武蔵野市内の七夕の事例。また、『武蔵野市史』(昭和45年(1970)3月)には七夕と盆について「とくに、飾った竹を庭に立て、その根本にロッポンビネと呼ぶ籠をふせておき、その上に延し板をのせ、飴で作った馬やまんじゅう、うどん、ナス、キウリを箕に入れておいた」とある (p1163)。

表1

No.	資料番号	商店名等	店舗名	内容(キャッチフレーズ、セール名など)	商品	点数
1	0007-0001	東光ストア	武蔵境店・三鷹店	もりもり食べようのキャラクターに巨大なスプーンとフォークを持った子ども/「奥様にお買物情報」/裏に100円均一、300円均一の商品	100円均一:台所用洗剤、スポンジ、小物洗い、冷蔵庫マット、スノコ、ボール、ビニールエプロン、洗桶、東子(たわし)入れ、落とし蓋、プラスチックポット、トング、生理用ショーツ、パフ(化粧落とし)、トイレコロン(香水)、風呂椅子、洗濯機のごみ取り、学童用プリントクッション、絵の具、画用紙、アンマ器ほか 300円均一:買物篭、重ねパスケット、俎板(まないた)、	1
				〈新学期用文房具取揃え〉/「さあ新学期、お母さま勉強しやすいように準備	シートクッション、ホーロータンク、屑入、キッチンポット、 雪平鍋、パスマット、座敷箒 (短柄)、洗濯機カパー、テ レホンカバー 鉛筆、大学ノート、ワイヤーステッチノート、スケッチブッ	1
	2027.000	+w=1=		してあげてください」	ク、ボールペン、すずり箱、鉛筆削り、マンガ	
2	0007-0002	東光ストア		「中元大売出し」/「天ぷらフライセール」/「暑さをフキとばすスタミナをつけるにはこれがいちばん!」/「サマーパンチセール」/「7月7日は七タまつり」	お風呂用品、海水浴用品、七タセットとしてビニール袋に 入っている折り紙セット	1
3	0007-0003	東光ストア		「奥様にお買物情報」/「奥様のよきパートナー」/「バンドルバーゲン」/「お 待ちかね! 奥様 お買得品がドッサリ 何といってもまとめ買いはお買得で す。余裕のあるお買物が楽しめます。」 「梅雨時にまた旅行にとっても便利」	エンゼルスター紙おむつ	1
				「ママにおねだりカッコイィよ〜ん」	おもちゃダンプカー	
	0007.0004	±W212		「美容と健康に生野菜を!」	マヨネーズ	+
4	0007-0004	東光ストア		「土用の丑ゴールデンビーフセール」/「★暑さをのりきるスタミナがつく★」 / (三鷹店・武蔵境店では惣菜を販売)	牛肉、惣菜	2
5	0007-0005	三平ストア	三鷹店	「髙円寺店開店記念協賛大売出し」/「電気部開店3周年記念特別大特売中」 /「赤ちゃんの自家用車」	ベビーカー	1
6	0007-0006	三平ストア	三鷹店	「レジャー用お買得品山積セール」		1
				「赤ちゃんの自家用車」 「夏の海や山へのレジャーには三平の特選品をお連れ下さい」	ベビーカー 海苔、ティーバッグ、チューインガム、チーズ、カレー、	-
	0007.0007		— ate c>-		ジュース(炭酸)、スペ柿、缶詰、菓子	<u> </u>
7	0007-0007	三平ストア	三鷹店	「中元謝恩大セール」/「三平ストア友の会々員様特別御優待!」	(500円または1000円以上購入すると、卵・白砂糖・ジュースが割引になる)	1
				「座布団干し 太陽と風に当てて下さい」	ザブトンネット クリーンカート	-
8	0007-0008	シヅオカヤチェーン	三鷹店	「お子様の歩行器」 「★夏バテ・疲労回復!スタミナもりもりセール」/「七月二十七日・土用丑 の日」	うなぎ、鯉、どじょう、牛肉、ローストチキン。特にうなぎ・ ローストチキン・牛肉は写真	1
9	0007-0009	シヅオカヤチェーン	三鷹店	「中元セール」/「夏の洗濯用品大特(価)」	ひやむぎ、そうめん、卵、肉、マスほか	1
10	0007-0010	シヅオカヤチェーン	三鷹店	「開店11周年記念特別大廉売」/「害虫退治セール実施中!」/「ご贈答品はグリーンスタンブサービスのシヅオカヤでどうぞ!」	オーストラリア産牛肉、卵、天ぷら油、蚊取線香、殺虫剤、 お子様安全花火セット	1
11	0007-0011	シヅオカヤチェーン	三鷹店	「お中元贈答用品コーナー開設 (7月4日まで)」/「おいしい焼肉をお召上り下さい。」	バーベキューコンロ、焼肉用フライパン、焼串	1
				「夏のスタミナを盛りつける、白い生地に金線巻きのオリジナル!!」	洋食器	
12	0007 0012			「坊やに大変よろこばれます!!」	ハイカップ	+-
12	0007-0012	mymart西友	武蔵境店	「サテライトカーセール」/「サラダセール」/「ジョリジョリ、サクサク、 サラダがお好きな家族は健康家族!」	マヨネーズ、ドレッシング	1
				「しゅんの味」 「27日は土用の丑の日 夏バテに栄養たっぷりのうなぎをどうぞ!!」	アユ、虹マス ウナギ蒲焼	-
13	0007-0013	新宿小田急	新宿	「決算大棚さらえ」/「残暑きびし・・ノースリーブ大活躍!」/「新学期は	衣類、自転車、ホーロー鍋、目覚まし時計、ラジオ付カセッ	1
				もうそこ一小田急にはかわいい子ども服がどっさり揃いました。」「小田急七 五三」	トテレコ、ステレオ、電動鉛筆削り器、屑入れ、抱き人形、ほか	
				「ご婚礼家具・ベッド決算大棚ざらえ」	ご婚礼4点セット(洋服タンス・衣裳タンス・整理タンス・ 上置ケース)、ベッド、スツール付ー面鏡	1
14	0007-0014	吉祥寺名店会館	吉祥寺	「771お中元セール」/「トーア吉祥寺店開店2周年記念セール」/「三階夏の 衣料市全店」	投票券による抽選、サンサンガールズのパレード、パイ ナップルバイキング (フレッシュ・パインの喰べ放題!!)	1
15	0007-0015	吉祥寺ステーション	吉祥寺	「ロンロン・グランドバザール」/「5割引セール」	プラフルバイキンフ (プレッシュ・バイフのJig: NJXRS::]	1
16	0007-0016	センターロンロン 吉祥寺名店会館	吉祥寺	「吉祥寺名店会館が贈る!!年に一度の大バーゲン」/「夏休み海の子大会〈貝		1
17	0007-0017	SUZUYA	吉祥寺	がらひろい〉」/「昆虫の世界」/「夏休みの学習に大いに役立ててください。」 「鈴谷パーゲンセール」/「素敵なファッションが1着分のご予算で3着お求	衣類	1
				めになれるハッピーなバーゲンセール」		
18	0007-0018	武蔵野商工会議所・ 武蔵野市商店会 連合会	古祥寺	「第13回武蔵野まつり」/納涼盆おどり大会/演芸大会/縁日横丁/「ふだん着のままでぐるっとひと廻りすれば なんでも揃ってしかもどこよりも安い商店街、それが当商店連合会です。これからもお買物は当会商店街をご利用下さい。」/仲見世商店会、中央商店会、朝日商店会、祥和商店会、祥和会		1
19	0007-0019	新宿小田急	新宿	飲食街/会場・(株) 横河電機グランド (三鷹駅北口) 「紳士・婦人服飾雑貨夏物一掃!!夏のクリアランスセール」/はきものまつり	靴、傘、草履、下駄ほか	1
20	0007-0020	第一家庭電器	吉祥寺店・三鷹店	パラソルまつり/恒例 夏のハンドバッグ破格大奉仕 「電化のサマー大バーゲン」	カラーテレビ、ステレオほか	1
21	0007-0020	地方文化建設協会・	吉祥寺 吉祥寺	武蔵野市公会堂にて山下清展とサイン会	カラーテレビ、ヘテレタ laが	1
22	0007 0000	武蔵野市教育委員会	士兴丰庄 一雄产	「師ルのサフーナパーゲン」	#_/ <i>A</i> _=_ h= =! ØGA	-
22	0007-0022	第一家庭電器	吉祥寺店・三鷹店	「電化のサマー大バーゲン」	ルームクーラー、カラーテレビほか	1

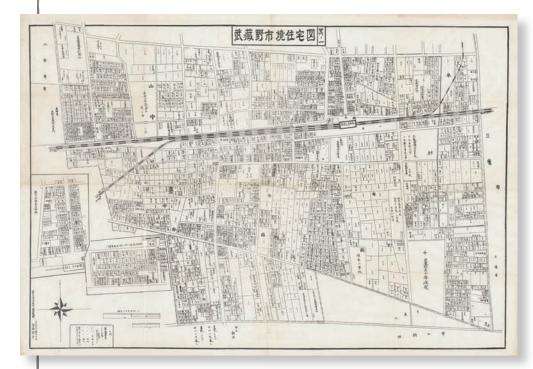
No.	資料番号	商店名等	店舗名	内容(キャッチフレーズ、セール名など)	商品	点数
23	0007-0023	京王ストア	ムサシノ店	「100円玉でオツリがきます! 今なら買えます この品が!」/「残暑お見舞いを 申し上げます 店長」/ 精内部門直営3周年記念/八よまつり	カレー、缶詰 (みかん・紅さけ)、冷麦、菓子、スパゲッ ティー、マーガリンほか	1
24	0007-0024	安田物産株式会社 中央線沿線特集	三鷹市下連雀	「ローンは必ず通用させます。」	三鷹市井口 (2100万円)、三鷹市上連雀 (2150万円)、 三鷹市北野 (1780万円・1895万円) 武蔵野市関前	1
25	0007-0025	ハヤミズ	吉祥寺	「全国名作ご婚礼セット予約大会」	(2100万円・2300万円) ほか タンスセット、半三面鏡、一面鏡、ドレッサー、スツー	1
26	0007-0026	イトーヨー力堂	三鷹店	「全館中元大売出し」/「お中元ご贈答用別誂お名入れタオル承ります。」 /「涼しいリビング用品 さわやかなデザイン」	ル (椅子) 洋服、氷削り器ほか	1
27	0007-0027	新宿小田急	新宿	「せとものあらもの大市」/「この夏最後の紳士服・紳士洋品底値セール」	食器、衣類	1
28	0007-0028	第一家庭電器	吉祥寺店·三鷹店	「電化のサマー大パーゲン」/「お車代進呈30cm以上の扇風機お持帰り の方に200円~300円差し上げます」	カラーテレビ、扇風機 (品名はお座敷扇・卓上扇・ベビー扇)、ルームクーラー	1
29	0007-0029	日高建設株式会社	杉並区和田	「都心直結国分寺最高級住宅地!!津田学園台」/「武蔵野の面影を残す特選秘蔵地!!」/「頭金150万円より」		1
30	0007-0030	配給·農業協同組合県 経済連全購連/製造· 日本合同肥料株式会社		「これがあれば大丈夫 野菜づくりを勉強した肥料! 園芸化成1号・2号」		1
31	0007-0031	大和住宅 (株)	小金井市本町	「〈新築〉特別セール実施中!!」	最寄り 吉祥寺駅(2450万円)、武蔵境駅(1850万円)、 三鷹駅(2650万円)、国分寺(1600万円)ほか	1
32	0007-0032	ハイネス恒産株式会社	中野区東中野	「立川ハイネス」/《朝に富士・夕に多摩川》/「市内初の偉容を誇る高層 住宅11階建」/完成予定=昭和47年3月	海水浴場紹介ほか	1
33	0007-0033	青楓チエンストアー 株式会社青山商店	葛飾区青戸	「71サマーレジャー海水浴 毎日スポニチ海の家」		1
34	0007-0034	紫雲閣	三鷹市下連雀	「佳き日を寿ぐ大衆化された結婚式場 お気軽にお二人でご相談下さい」		1
35	0007-0035	中嶋設備株式会社	武蔵野店	「小金井店開店御案内」		1
36	0007-0036	東亜化學株式会社	横浜市鶴見区	「リバーコートは屋根用のペンキ」/「シタミコートは下見用のペンキ」	東亜化学のトタン板用塗料、下見用塗料	1
37	0007-0037	配給·農業協同組合県 経済連全購連/製造・ 日本合同肥料株式会社		「くみあい有機・苦土入り化成7号」		1
38	0007-0038	日本電信電話公社		「三多摩・相模・伊豆七島版(1971、6)」/「上手に使おう公衆電話」/ お忙しいママに耳よりなニュース - 電話料は自動支払いで-」/公衆電話		1
39	0007-0039	農業協同組合県経済連		の使い方。青電話 (大形・小形)、赤電話 (大形・小形) 「ビクタークミアイオルガン」	電子オルガン	1
37	0007-0037	全購連			@ J 370/J 2	'
40	0007-0040	靴のミマツ	吉祥寺駅前通り店	「靴がとにかく安い 半額以下で大処分」/店舗改装のため・・・!! 閉店大売出し」		1
41	0007-0041	六光デンキチェーン	田無市向台町	「開店 2 周年記念・全店中元大売り出しビッグサマーセール」/「ボーナスで待望のカラーテレビ・ステレオを!」/「台風にそなえて懐中電灯・トランジスタラジオ」/「これから売れる電子レンジ」	カラーテレビ、ステレオ、冷蔵庫、全自動洗濯機、ア イロン、ロースター付ガスレンジ、自動トースター、 大型ミキサーほか	1
42	0007-0042	村越商会	三鷹市	「'71カメラ月販キャンペーン-夏」/「カメラで夏をとらえよう!」	カメラ	1
43	0007-0043	新宿文明堂	吉祥寺ステーションセンターロンロン	「新宿文明堂のクマちゃんセール」	カステラ	1
44	0007-0044	京王ストア	ムサシノ店	「この夏は"疲れる,ダルイ"におさらばしょう」/「夏の味覚とスタミナセール」	フィルム、蠅帳、食卓カバー、子羊の肉 ラム	1
45	0007-0045	教育社	西久保	「トレーニングペーパー夏休みからの会員募集」	中学3年用のデイリープログラムほか	1
46	0007-0046	マルトミ	武蔵境店	「このチャンスを見逃すな!!ポーナスセール」	「カラーテレビ、5万円以上お買い上げの方に豪華日本人形を進呈!!」、(すべて「扇風機」表記)	1
47	0007-0047	ハイネス恒産株式会社	中野区東中野	ハイネス阿佐ヶ谷/「将来にわたって太陽を確保した屈指の住環境」		1
48	0007-0048	ハイネス恒産株式会社	中野区東中野	(阿佐ヶ谷の住宅紹介)	- WF	1
50	0007-0049	長崎屋 ホンダ販売 ムサシノ株式会社	三鷹市下連雀 武蔵野市中町	「高級呉服大奉仕市」/「七五三祝着奉仕会」 「トリブルブレゼントセール実施中」/「ムサシノ祭り、ホンダコーナーにご来店下さい。」	衣類 ギフト(寝具、海苔、タオルなど)	1
51 52	0007-0051 0007-0052	小松ストアー 内藤薬局	三鷹店 武蔵野市境	「サマーギフトセール」/「1周年記念寝具コーナーバーゲン」 「夏のお買得特報!!」/《夏のビタミン祭り》/「資生堂サマーセール実施中」 /「100円でおつりセール」	アルミホイル、ラップ、歯ブラシ、シャンプー、洗濯 のり、洗剤類ほか	1
53	0007-0053	六光デンキチェーン	田無市向台町	「開店2周年記念企画 超目玉クレジット特集!!」/「印刷まちがいでは ありません」	カラーテレビ、ルームクーラー、虫よけ電球、水銀灯、 冷蔵庫、全自動食器洗い機、カセットレコーダー、「自 動アイロ」(電気アイロンか)、乾電池カミソリ、ミキ サー、全自動乾燥機	1
54	0007-0054	花俣	吉祥寺ダイヤ店	「度付サングラスビッグセール」	サングラス	1
55	0007-0055	イトーヨーカ堂	三鷹店	「全館中元大売出し」/「毎日とりかえましょう涼しい肌着」	洋服、サランラップ、蚊取り線香、花ござ、肌着ほか	1
56	0007-0056	丸石楽器店	吉祥寺本町	「MSシリーズ発売記念 クラシカルマッププレゼントセール」	ステレオ	1
57	0007-0057	ジュピ	吉祥寺店	「お届けはスグに、お支払いはボーナスで」/「ボーナス予約セール」	食器戸棚、本箱・書棚、応接セット(テーブル・ソファ)、 食堂セット(テーブル・椅子)、整理タンス、サイドボード	1
58	0007-0058	第一家庭電器	三鷹店・吉祥寺店	「ボーナスがチャンス」	テレビ、ステレオ、ルームクーラー、「扇風機」、洗濯機、冷蔵庫	1
59	0007-0059	mymart西友	武蔵境店	「日本の祭りが見られる 中元大売出し」/「ご予算が大きく生きる。ハイライフプラン」/「お盆お線香キャンペーン」/「西友のお中元ご贈答品」/「お子様の行水 水遊びに!」	「扇風機」、クーラー、洗濯機、子供用自転車、カメラ、 七夕セット(織姫&彦星の飾り)	1
				「お世話になっているご近所のごあいさつはお早めに!」	(短髪にパーマをかけた女性のキャラクター)	
				「ポクのおこづかいで買えるヨ!」	ビニールマット、虫カゴ、昆虫採集セット、コミック トレイン〈電動ノンストップ〉	

収蔵資料紹介 ②

境地域最古の住宅地図

武蔵野ふるさと歴史館 学芸員 波田尚大

境地域における、最古と思われる住宅地図が発見された。富樫要吉が調査・製図した「武蔵野市境住宅図其ノー」という図がそれである。本図は昭和35年(1960)5月のもので、寸法は縦540mm、横785mmで、表面が若干の光沢を帯びた紙でできている。



本図の製作者である富樫 要吉という人物については、山田誠の「戦前期作成の住宅地図類に関する一考察」(*)に詳しく、本地図に関係する箇所を引用する。

「(富樫は)太平洋戦争後10年以上経過した1960年前後になって、東京西郊で住宅地図の作成を再開している。現在の西東京市域について、1959年から1963年にかけて何種類かの図を作成していることが知られ、その当時の住所は現在の小平市であった。」

昭和30年代の小平に住み、北多摩地方の住宅地図を作成していった富樫の業績をまとめると以下のようになる。

右の表から「武蔵野市境住宅図其ノー」は田無、保谷の住宅地図が作成される最中に作成されたものであることがわかる。また、調査・製図年代の間隔から「武蔵野市境住宅地図其ノニ」の存在もうかがい知ることができる。

武蔵野市立図書館編集・発行「おしえてむさしの!~武蔵野市についての調べ方案内」No.4⁽²⁾で紹介されているように、確認されている中で、境地域が掲載され

表 富樫 要吉製作 東京都内住宅地図 一覧

番号	調査・製図年代	地図名	所蔵
1	昭和34年(1959)7月	田無駅北部住宅地図 ※	西東京市中央図書館
2	昭和34年(1959)9月	田無駅南部住宅地図 ※	西東京市中央図書館
3	昭和35年(1960)5月	武蔵野市境住宅図 其ノー	武蔵野ふるさと歴史館
4	昭和36年(1961)7月	上保谷線路南住宅図2	東京都立中央図書館
5	昭和37年(1962)2月	上保谷西武線北部住宅図	西東京市中央図書館
6	昭和37年(1962)10月	西武池袋線保谷町南部住宅詳細図	西東京市中央図書館
7	昭和38年(1963)10月	下保谷北部住宅図	西東京市中央図書館

※印は複写

ている最も古い住宅地図は昭和37年(1962)に住宅協会から発行された『武蔵野市三多摩地区商工住宅名鑑』であったが、本図の発見により、それより2年遡った境地域の詳細な様子を知ることができるようになった。

富樫が作成した北多摩地方の住宅地図や、本図を活用した調査・研究によって、市域及びその周辺の時代ごとの街並みの変化を追うことができるようになるだろう。

[註]

- (1) 山田 誠「戦前期作成の住宅地図類に関する一考察」龍谷学会『龍谷大学論集』480号 平成24年(2012)10月。
- (2) 武蔵野市立図書館 編集・発行「おしえてむさしの! ~武蔵野市についての調べ方案内」No. 4 平成26年(2014)2月。

武蔵野ふるさと歴史館だより 第7号 発行 令和3年(2021) 3月31日

〒180-0022 東京都武蔵野市境 5-15-5 Tel 0422-53-1811

[HP] http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/shogaigakushu_koza/rekishikan/ [Facebook] https://www.facebook.com/musashino.rekishikan/ [Twitter] https://twitter.com/musashino_reki [E-mail] rekishikan@city.musashino.lg.jp





